区政区議会報告・地域情報を週刊で発行しています。ご意見をお寄せください。

日本共産党荒川区議会議員
斉藤 くに子

区政ニュース

2019年６月30日No1186号

区役所直通3802－4627
fax3806－9246
メール:arajcp@tcn-catv.ne.jp
区議団http://www.jcp-arakawakugidan.jp/くに子ブログhttp://s-kuniko.jugem.jp/

★法律・生活相談会★

弁護士の定例相談は第４月曜日

7月22日(月)

★荒川区荒川7－37－1(コミバス花の木停留所前)
TelFax３８０６－５１３４
★生活相談は随時相談に応じます。ご連絡ください。
★弁護士事務所の予約を取りますのでご連絡ください。

ご意見ご要望

○天皇の制度について志位和夫委員長のインタビュー記事を読みました。
天皇制廃止を党の綱領から削除し、憲法に沿って天皇のあり方に答えたもので読みごたえがありました。良かったです。是非皆さんに読んでほしいと思いました。

海の汚染～マイクロプラスチック対策は急務

レジ袋はやめてお買い物袋を。衣類を包んでいるプラ袋や使い捨てストローの廃止を。ペットボトルやビニール傘のポイ捨て禁止など、海の汚染を考え始めていますが、私たちの生活はプラスチック製品が一杯です。ここから脱却するのはとても大変。しかし身近な所からもっと考えなくてはいけないようです。

化繊の服を1回洗濯すると約2000本の繊維(マイクロプラスチック)が排水される。
毎日何気なく使っている台所スポンジもアクリルタワシも同様、海のプラスチック汚染と深く関わっている。

たばこのフィルターもプラスチックの1種。　ポイ捨てや缶に吸い殻を入れて捨てるのも厳禁！！

「マイクロビーズ」化粧品、洗顔剤、ボディソープなどに含まれる「微細なプラスチック粒子」
大きさは1mm以下で、バスルームや洗面所から下水処理施設のフィルターを通過して川や湖、海に、毎年何百万トンも流れ込んでいる。

世界では年間３億８千万トンのプラスチックが生産され、その半分が一回限りの使い捨てとされています。
毎年800万トンが陸から海へと流れ込んでいます。このままでは、2050年までに海のプラごみが魚の総重量を超えるといわれています。
生態系に与える影響は深刻化しており、海洋プラごみをはじめプラごみ対策は、地球の将来がかかった大問題です。
日本は、１人当たりの使い捨てプラスチックの廃棄量が米国に次いで２番目に多い国ですが、対策は立ち遅れています。日本は年間900万トンのプラごみを排出し、約100万トンが東南アジアに輸出されています。
中国が１７年末に輸入を禁止したため、日本国内の処理が追いつかず、プラごみが保管場所に山積みになったり、不法投棄されたりするケースが相次いでいます。
不必要なプラ製品を生産しないような発生元での削減対策に取り組む必要があります。プラ製品の大量製造、大量消費という経済・社会のあり方の見直しは急務です。

赤ちゃん泣いてもいいよ

荒川区も参加を

エッセイスト紫原明子さんの呼びかけにより、ウーマンエキサイト(ママを中心とした女性向けの情報サービスサイト)が2016年5月5日に「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」発足。赤ちゃんの泣き声を温かく見守っている人たちが居ることを可視化するステッカーを作りました。
世田谷区が賛同し、6月から区役所等の区施設や協力企業にステッカー付のチラシを置き、普及しています。また缶バッチやキーホルダーを民生委員さんなどにつけてもらい「泣いてもいいよ」を広めていきます。
「荒川区も参加を」と相馬ゆうこ議員が本会議で提案しました。区は「子育て応援店が47店に広がり、同じ気持ちで取り組んでいる」として参加表明は残念ながらありませんでした。引き続き発信をしていきたいと思います。

煩音ご存知ですか

煩わしい音と書いてハンオンと読みます。「煩音」とは、人間関係や心理状態によってうるさく感じてしまう音。出す側と聞かされる側との関係性が深く関わっています。

インターネット上で「声を出さないで」の貼り紙がある公園が話題になったそうですが、電車や施設で子どもが泣いたらどうしようと不安になる親は少なくありません。お互いの理解で解決することが大事で「騒音」とは区別する対応が必要です。
東京都福祉局の調査で整備して欲しいことの第2位が「子どもが泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」でした。
都が7月末から大江戸線に「子育て応援車両」をつくり試験運行するとの報道がありましたが、子どもも地域の共同の一員として尊重する社会をつくりたいものです。

８０５０問題の取り組みの強化を

政府は今年３月に40歳から64歳の中高年者の引きこもり状態の人の実態調査を実施。

部屋から出られない人から、趣味に関する用事の時だけ外出できる人までを含めて、推計61万3000人。2015年度にほぼ同じ条件で出した15～39歳の推計値は54万1000人で、合わせて100万人を超える。

「今の40代を中心に就職氷河期時代を体験し、不本意な就職をして不安定な雇用状態のまま過ごしてきた方も多く、社会的に孤立するきっかけを多くもっている。

また、ひきこもるきっかけは、学校や就職だけでなく何十年も働いてきた中で途中でつまづいてしまったり、親の介護のために仕事をやめてしまったりした人などいろいろな人が含まれている」と言われています。

今回の調査でもひきこもりになった期間を見ると「3年から5年」がおよそ21%と最も多かった一方、「5年以上」と答えた人が半数を超え、中には「30年以上」といった長期化の傾向が見られたとしています。

ひきこもりを抱える親たちのケア・支援、行政の本気の取り組みが必要です。

6月24日の本会議質問で日本共産党、小林行男議員が

①専門家を配置した、引きこもり相談・支援専門窓口を設け、広く周知し相談に応じること。

②保健、医療、福祉、教育、親の会をはじめ各種NPO団体などとのお互い顔の見える連携体制・ネットワークをつくること

を求めました。

荒川たびだちの会

「荒川たびだちの会」では、ご家族やご本人がお互いの悩みを共有し、お互いに声を掛け合う形で月例会を開催しています。

八方ふさがりで悩んでいる方は、まずは吐き出してみませんか。ご一緒に一歩を踏み出しましょう。

1回500円（当事者は無料）

第4土曜午後13時30分から16時30分（月例会）社会福祉協議会会議室

お問い合わせ：生涯学習課　地域学習支援係　電話：03-5615-4884

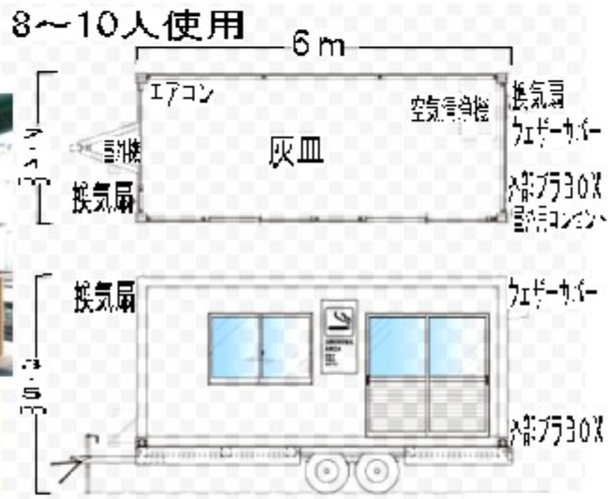
（荒川区ホームページより）

※会場は社協が提供し、保健師さんが参加しています。

本庁舎喫煙所を廃止し 荒川公園内に移動式トレーラー型を整備

6月末で本庁舎１階東側入口付近に設置されている喫煙所は廃止になります。

その後は９月設置予定で、電源コネクタ着脱で随時かつ任意に移動可能なトレーラー型屋内喫煙所を荒川公園内に設置することになりました。

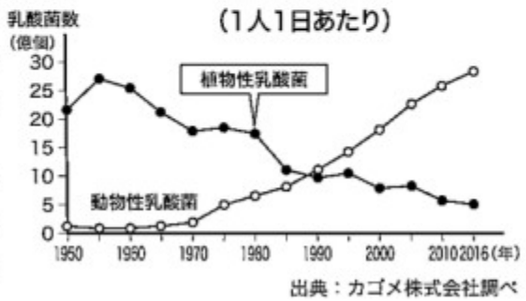


整備費は1,000万円（都補助10/10）

区職員の皆さんに勤務中の喫煙自粛を徹底し、禁煙を希望する職員への支援メニューを検討。

日本人は古くから「植物性乳酸菌」と暮らしてきた

乳酸菌といえばヨーグルト。ロシアの微生物学者メチニコフが「ヨーグルトによる長寿説」を発表し1908年にノーベル生理学・医学賞を受賞して世界的に有名になりました。

日本の庶民の口に入るようになったのは1950年代になってから。ヨーグルトの乳酸菌との付き合いはおよそ70年。それよりはるか昔から日本人は植物発酵の乳酸菌と接してきました。

味噌・醤油・ぬか漬け・野沢菜・酎鮨・久寿餅…食事の洋風化や減塩志向で植物乳酸菌を取ることが減ってきていますが、日本人のお腹に適した植物乳酸菌を見直してみませんか。